

自由論題 7「東南アジアの経済」・報告 3

報告テーマ

マレーシアにおける中小企業金融の展開とその特徴

“Development and Characteristics of Small and Medium Enterprises Finance in Malaysia”

氏名(所属)

上原健太郎(京都大学)

要旨(800字程度)

個人消費を中心とした内需が下支えをする近年のマレーシア経済にとって国内の生産・雇用を大きく担う中小企業は、その動向を左右する存在といっても過言ではない。そのなかで同国では、中小企業が金融サービスにアクセスしやすくなるよう、その環境の改善が求められるようになってきている。

本報告の目的は、マレーシアの中小企業金融をめぐって、どのような課題が論じられてきたか、及びその課題に対して政府当局・中央銀行がどのように施策を講じてきたのかを示し、その特徴を明らかにすることである。

上の目的を達成するために本報告は、大きく以下の3点に着目して、順に概観・分析を行う。

まず、マレーシアの経済政策の文脈で中小企業の存在がどのように論じられてきたのか概観する。具体的には、同国の開発政策に関する研究を振り返りながら、マレー人を中心とするブミプトラを対象とした政策(いわゆるブミプトラ政策)において、中小企業の育成・発展がどのように位置づけられてきたのかを示す。

次に、マレーシアの中小企業金融に関する具体的な施策について説明する。マレーシアの中小企業金融は、大別して政策金融機関と国営商業銀行による与信業務がその役割を担う。本報告では、それらの具体的な取り組みとその成果・課題を挙げる。

最後に、上の施策に対する評価を踏まえつつ、現時点で示されている中小企業金融の政策ヴィジョンを紹介し、その意義について議論を試みたい。2010年代に入り、マレーシアの中小企業金融をめぐって強調されているのが、イスラーム金融の潜在性である。2019年1月にマレーシア中央銀行のアドナン・ザイラニ・モハマド・ザヒト総裁補は、同国の中小企業の約6割が企業向けイスラーム金融サービスにアクセスできるにもかかわらず、これを認知していないとし、改善する構えを見せている。そこで中央銀行によって導入・推進されているコンセプトが、価値ベースの仲介(Value-Based Intermediation, VBI)である。本報告では、VBIの志向する金融システムの様相を説明し、中小企業金融との政策的インプリケーションを示したい。